

東 予 港

PORT OF TOYO

2024

■沿 革

本港は愛媛県東部に位置し、東港、西条、中央、壬生川及び河原津の5地区よりなっている。

（東港地区）

東港地区は元新居浜港の一部であったが、新居浜港本港と同様佐友鉱山を中心とする佐友系企業と歩みを同じくして発展してきた。昭和39年愛媛県の東予地区が新産業都市に指定されたことに伴い東予新産業都市計画が策定され、この計画に基づき港湾計画を再検討した結果、東予港西条地区、壬生川地区と一体をなす東予港新居浜地区として東予港の港湾計画に編入され、昭和44年10月より県管理港湾東予港の港湾区域となった。

（西条地区）

西条地区は旧西条港であり、その起源は江戸時代初期藩主による河口港構築にさかのぼる。当時から付近一帯に広大な干潟があり、水路水深維持は困難をきわめた。しかし町勢の発展に伴い入港船舶、取扱貨物量が増大し、昭和9年4月には指定港湾となり同時に修築工事に着手、昭和11年に完成した。第2次大戦前後に港勢衰退期があったが、経済復興とともに再び港湾改修の声が上がり、昭和23年度より整備が進められ、昭和39年に西条市が東予新産業都市の指定を受けるとともに、同年4月西条港が東予港（西条地区）として重要港湾の指定を受けて、その中心地区として整備が進められている。

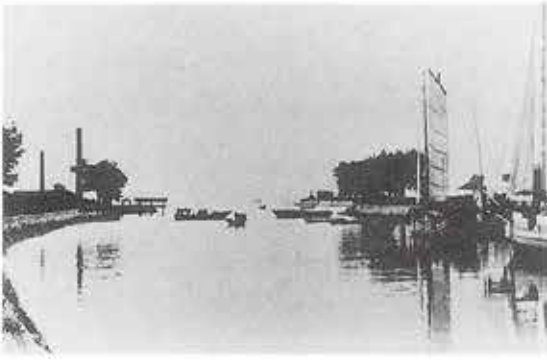
（壬生川、中央、河原津地区）

壬生川、中央、河原津地区は旧壬生川港であり、江戸時代初期新田開発と同時に築造され、海防の拠点及び年貢米移出港として利用された。その後大正3年に一部港湾拡張がなされたが、本格的な港湾整備は、昭和8年現在の富士紡績株式会社の工場設立を契機にはじめられ港勢は著しく進展した。昭和39年東予市が東予新産業都市の指定を受けるとともに、同年4月壬生川港が東予港（壬生川地区）として重要港湾の指定を受け、以来この地区の整備が進められている。

■みなとの変遷



人力車による乗船（大正中期）



御本陣川河口（大正中期）



西条港起工式（昭和9年）



壬生川地区（昭和初期）内港



西条地区全景（昭和40年代）



壬生川地区（昭和42年）干拓地



西条地区全景（昭和54年）



壬生川地区全景（昭和54年）

■港湾計画の概要

本港の背後圏は、新産業都市の指定を受けて以来、愛媛県の工業活動の中核として重要な地位を占めており、臨海部に立地する工場の原材料及び製品の輸出入や、愛媛県と阪神地域とを結ぶフェリーによる人・物の移出入を中心に、産業活動及び地域の物流を支える拠点として、本港は重要な役割を果たしている。

- 1）背後企業の生産・消費活動の拡大に対応するため、外内貨物流機能の拡充・強化を図る。
- 2）陸上交通体系と連携した海上輸送機能の強化に対応するとともに環境負荷の低減に資するため、フェリー機能の強化を図る。
- 3）港湾と背後地域との連絡を図るため、臨港交通体系の充実を図る。
- 4）大規模地震災害時における避難、緊急物資輸送等の対策を進めるとともに、震災時における経済活動を支える物流の確保を図る。
- 5）港湾における快適な環境の創造を図るため、市民が海に親しむことのできる親水空間の確保及び地域住民等の交流に配慮した空間の創出を図る。
- 6）港内に残された自然環境の保全に努めると共に、自然と人が共生する良好な港湾環境の形成を図る。
- 7）港湾区域内における船舶の適切な利用を図るため、既設の係留施設の有効利用や新たな係留施設の整備を行い、船舶の適切な収容を図る。
- 8）多様な機能が調和し、連携する質の高い空間を形成するため、陸域約1,200haと水域約13,800haからなる港湾空間を以下のように利用する。
 - ①東港地区、西条地区（東部、中央部）、壬生川地区（中部、東部）は、物流関連・生産ゾーンとする。
 - ②壬生川地区（北部）は人流関連・交流拠点ゾーンとする。
 - ③西条地区（北部）、壬生川地区（北西部）は船だまり関連ゾーンとする。
 - ④西条地区（北部及び南西部）、壬生川地区（北部）、河原津地区（東部）は緑地、海浜レクリエーションゾーンとする。

現行 港湾計画		計画の経緯	
取扱い施設	内容	年 月	種 別
外 貨	340万トン	昭和39年2月	第21回 新 規
内 貨	1,740万トン	昭和44年2月	第37回 一部変更
内 貨	2,000万トン	昭和49年2月	第47回 一部変更
計	2,080万トン	昭和53年12月	第84回 一部変更
入港最大標準船型	5万D/W級	昭和57年	一部変更
利用船舶数	旅客施設利用者 30万人	平成2年12月	第120回 改 訂
		平成4年12月	第143回 一部変更
		平成7年3月	交通政策審議会 第12回 改 訂
		平成10年3月	一部変更
		平成11年10月	一部変更
		平成12年10月	一部変更
		平成13年10月	一部変更
		平成14年10月	一部変更
		平成15年10月	一部変更
		平成16年10月	一部変更
		平成17年10月	一部変更
		平成18年10月	一部変更
		平成19年10月	一部変更
		平成20年10月	一部変更
		平成21年10月	一部変更
		平成22年10月	一部変更
		平成23年10月	一部変更
		平成24年10月	一部変更
		平成25年10月	一部変更
		平成26年10月	一部変更
		平成27年10月	一部変更
		平成28年10月	一部変更
		平成29年10月	一部変更
		平成30年10月	一部変更
		令和元年10月	一部変更
		令和2年10月	一部変更
		令和3年10月	一部変更
		令和4年10月	一部変更
		令和5年10月	一部変更
		令和6年10月	一部変更
		令和7年10月	一部変更
		令和8年10月	一部変更
		令和9年10月	一部変更
		令和10年10月	一部変更
		令和11年10月	一部変更
		令和12年10月	一部変更
		令和13年10月	一部変更
		令和14年10月	一部変更
		令和15年10月	一部変更
		令和16年10月	一部変更
		令和17年10月	一部変更
		令和18年10月	一部変更
		令和19年10月	一部変更
		令和20年10月	一部変更
		令和21年10月	一部変更
		令和22年10月	一部変更
		令和23年10月	一部変更
		令和24年10月	一部変更
		令和25年10月	一部変更
		令和26年10月	一部変更
		令和27年10月	一部変更
		令和28年10月	一部変更
		令和29年10月	一部変更
		令和30年10月	一部変更
		令和31年10月	一部変更
		令和32年10月	一部変更
		令和33年10月	一部変更
		令和34年10月	一部変更
		令和35年10月	一部変更
		令和36年10月	一部変更
		令和37年10月	一部変更
		令和38年10月	一部変更
		令和39年10月	一部変更
		令和40年10月	一部変更
		令和41年10月	一部変更
		令和42年10月	一部変更
		令和43年10月	一部変更
		令和44年10月	一部変更
		令和45年10月	一部変更
		令和46年10月	一部変更
		令和47年10月	一部変更
		令和48年10月	一部変更
		令和49年10月	一部変更
		令和50年10月	一部変更

■港湾施設

■外郭施設

地区名	施設名	延長(m)	管理者	構造
東 港	西 浜 防 波 堤	154	佐 友 化 学 興	傾 斜 堤
	東 港 防 波 堤	676	愛 媛 県	直 立 堤
	王 津 防 波 堤	120	西 条 市	傾 斜 堤
西 条	東 港 防 波 堤	235	愛 媛 県	傾 斜 堤
	西 防 波 堤	326	〃	傾 斜 堤
	古 川 第 一 防 波 堤	40	〃	傾 斜 堤
	古 川 第 二 防 波 堤	100	〃	傾 斜 堤
壬 生 川	壬 生 川 防 波 堤	2,117	〃	傾 斜 堤 等

■水域施設

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	幅員(m)	備 考
東 港	東 港 航 路	-12.0	1,250	250	
	西 へ ち 航 路	-5.5	655	100	
西 条	西 条 航 路	-5.5	1,600	100	
中 央	中 央 航 路	-7.5	3,480	190	
	広 江 川 航 路	-1.0	400	15	
壬 生 川	壬 生 川 航 路	-5.5	800	100	

地区名	施設名	水深(m)	泊地面積(千㎡)	備 考
東 港	東 港 (-5.5) 泊 地	-5.5	39	
	東 港 (-7.5) 泊 地	-7.5	37	
	東 港 (-4.5) 泊 地	-4.5	22	
	磯 浦 泊 地	-5.5	64	
	西 条 泊 地	-5.5	115	
西 条	西 条 泊 地	-4.0	32	
	西 へ ち 泊 地	-5.5	114	
中 央	中 央 泊 地	-7.5	126	
	外 港 泊 地	-5.5	500	
壬 生 川	北 条 泊 地	-5.5	82	
	壬生川小型船舶まり泊地	-2.5	35	

■荷捌き施設及び保管施設

地区名	施設名	管理者	面積(㎡)	構 造	主 取扱貨物	要 求
東 港	東 港 野積場	愛 媛 県	13,694	未舗装	砂利、スラグ	〃
	東 港 荷捌地	〃	18,642	〃	〃	〃
西 条	西ひうち野積場	〃	15,871	アスファルト舗装	鉄鋼品、雑貨	〃
	西ひうち野積場	西 条 市	7,275	アスファルト舗装・砂利	〃	〃
	西ひうち野積場	今治造船㈱	7,468	砂利	〃	〃
	第1号	愛 媛 県	3,825	コンクリート舗装	米穀類、金属類	〃
	第2号	〃	2,767	アスファルト舗装・砂利	砂利、砂、鉄鋼品	〃
中 央	中 央	〃	10,897	コンクリート舗装	砂利、砂、石材	〃
	新中央	〃	1,646	アスファルト舗装	〃	〃
壬 生 川	北条A	〃	11,073	〃	その他木材	〃
	北条B	〃	6,500	〃	砂利、砂、石材	〃
	外港A	〃	4,747	〃	〃	〃
	外港B	〃	3,792	〃	〃	〃
	壬生川小型船舶1号積場	〃	8,225	未舗装	〃	〃
	西条市壬生川野積場	西 条 市	1,200	アスファルト舗装	砂利、砂、石材	〃

地区名	施設名	管理者	面積(㎡)	棟数	構 造	主 取扱貨物	備 考
東 港	石 膏 倉 庫	佐 友 共 同 協 会	1,083	1	コンクリート	石膏	
	西ひうち3号倉	エ ー ス 物 流 ㈱	2,199	1	鉄骨スレート	木材等	
西 条	西ひうち3号倉	三 洋 倉 庫 ㈱	1,688	1	鉄骨スレート	パルプ紙等	
	製 品 倉 庫	㈱クラレ西条工場	7,728	3	鉄骨スレート	化学製品	
	三 洋 倉 庫	三 洋 倉 庫 ㈱	541	1	木造モルタル	フィルム・繊維製品	
中 央	東 予 運 輸 倉 庫	東 予 運 輸 ㈱	6,269	4	鉄骨スレート	その他	
	東 予 運 輸 倉 庫	東 予 運 輸 ㈱	269	1	木造モルタル	セメント	
壬 生 川	東 予 運 輸 倉 庫	壬 生 川 港 運 輸 ㈱	602	1	木造モルタル	セメント	

■自然状況

(1) 地 質

本港背後山麓には、東西に中央構造線が走り、それを境に地質が大きく異なっている。山間部にあつては、緑色片岩、黒色片岩が主体をなし、平野部にあつては砂礫層に厚さ15～20mの粘土またはシルト層が載っている。透水層と不透水層が互層となしているため豊かな被圧地下水層が存在する。

(2) 風向・風速

年間を通じてS～SW方向の風が卓越している。風速10m/sec以上の強風の出現率は1%程度であり、年間を通じWSW方向が卓越している。

(3) 潮 位

期望平均満潮面	C. D. L(+)	3.800メートル
期望平均干潮面	C. D. L(+)	0.170メートル
平 均 潮 位	C. D. L(+)	2.000メートル
過去の最高潮位	C. D. L(+)	4.590メートル (昭和29年9月23日)
過去の最高潮位	C. D. L(-)	0.300メートル (平成17年1月11日)
東京湾中等潮位	C. D. L(+)	1.880メートル

(4) 潮 流

上げ潮時に東流、下げ潮時に西流が生じる。W方向ほど大きくなる傾向があるが、最大1.0ノット程度で比較的緩やかである。

■けい留施設

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	バース数	対象船舶(D/W)
東 港	東港 (-4.5) 岸壁	-4.5	120	2	700
	東港 (-5.5) 岸壁	-5.5	180	2	2,000
	東港 (-7.5) 岸壁	-7.5	130	1	5,000
西 条	西ひうち岸壁	-5.5	450	5	2,000
	第1号岸壁	-5.5	270	3	2,000
中 央	中央岸壁	-7.5	260	1	16,000
	新中央岸壁	-5.0	110	1	3,000
壬 生 川	北条岸壁	-5.0	270	3	2,000
	外港岸壁	-5.0	140	2	1,000

地区名	施設名	水深(m)	延長(m)	バース数	対象船舶(D/W)
東 港	住友重機械工業・住友重機械岸壁	-5.5	336	2	9,450
	住友化学新居浜製薬所・第16岸壁(ドルフィン)	-6.0	5	2	2,000
	住友共同電力・石膏棧橋(ドルフィン)	-5.5	34	1	2,000
	住友共同電力・別紙磯浦バース	-12.0	170	1	30,000
	住友金属鉱山・鉱山岸壁	-4.5	142	2	1,000
	住友金属鉱山・水沖棧橋	-4.5	30	1	1,000
	住友金属鉱山・硫酸重油棧橋	-4.5	38	1	2,000
西 条	四国電力・荷揚棧橋	-5.5	20	1	2,000
	四国電力・荷揚棧橋	-5.5	110	1	2,000
	今治造船・今治造船岸壁	-5.5	686	2	15,000
	今治造船・今治造船舷装岸壁	-7.5	450	2	220,000
	貝崎造船・荷揚棧橋	-5.5	120	1	2,000
中 央	住友重機械工業・鐵装岸壁	-5.5	150	1	—
	住友共同電力・荷揚棧橋	-5.0	40	1	2,000
	住友共同電力・ドルフィン	-5.0	40	1	2,000
壬 生 川	日本製鉄・さん橋 (A)	-5.5	138	1	2,000
	日本製鉄・さん橋 (B)	-5.5	146	1	2,000
	日本製鉄・さん橋 (C)	-5.5	90	1	1,670

上 屋

地区名	施設名	管理者	棟数	面積(㎡)	構 造	主 取扱貨物	備 考
壬 生 川	さん橋A上屋	日本製鉄㈱	1	4,184	鉄 骨	鉄鋼	

■臨港交通施設

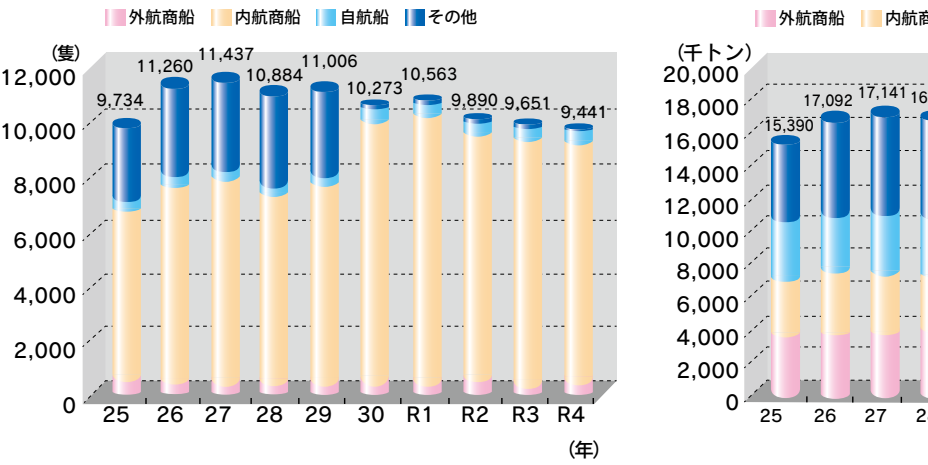
地区名	施設名	延長(m)	幅員(m)	構 造
東 港	東 港 臨 港 道 路	1,152	13.0	コンクリートアスファルト
西 条	西 ひ っ ち 東 西 線	783	6.5	アスファルト
	1 号 地 線	1,055	6.5	アスファルト
中 央	中 央 港 臨 港 道 路	2,101	7.5	コンクリート
壬 生 川	北 条 臨 港 道 路	2,531	25	コンクリートアスファルト
	壬 生 川 臨 港 道 路	1,024	12	アスファルト

■その他施設

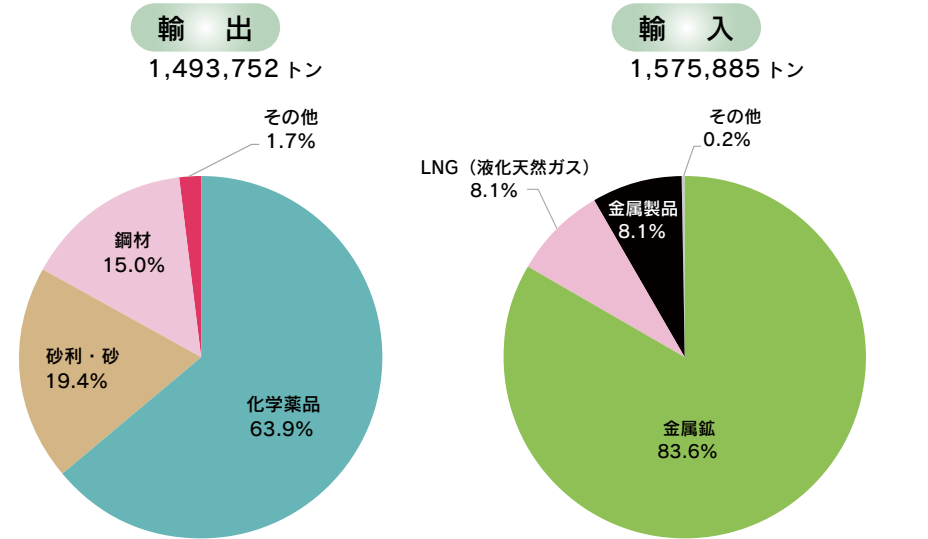
地区名	施設名	管理者	棟数	面積(㎡)	構 造	備 考
中 央	旅客上屋	四国開発フェリー㈱	1	810	鉄骨造	

■港 勢

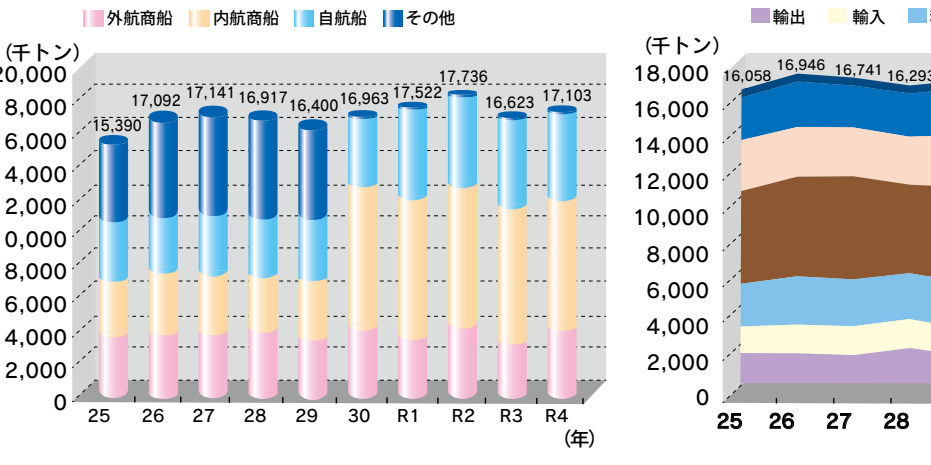
○入港船舶隻数の推移



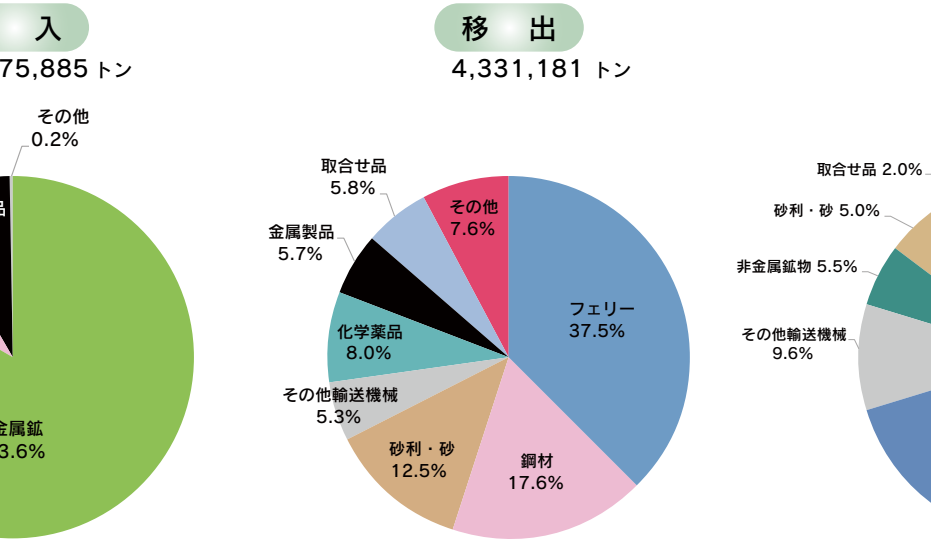
○取扱貨物の品目構成



○入港船舶トン数の推移



令和4年（2022年）



○海上出入貨物量の推移